
ナルシスト勇者VSオネエ大魔王

暁月 麗華

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ナルシスト勇者VSオネエ大魔王

【Nコード】

N6199V

【作者名】

暁月 麗華

【あらすじ】

（オネエ）大魔王『イヤーン』によつて、DM勇者が倒されてしまったので、女王は新たな勇者を呼び出した。しかし、今度やってきた勇者はナルシストだった。

（前書き）

前作『ドM勇者VSオネエ大魔王』の二作目です。

オネエ大魔王『イヤーン』によって、ドピンクに染まった世界。とはいえ、染まったのは魔物だけだった。

それでも、魔物は危険だ。今度こそ、あの大魔王を倒す勇者を探さない。

そう思った女王サディは、再び兵士に命令するのだった。

「この世界で一番強い勇者を探せ！今日中にだ！」

そして、今日も兵士たちはサディス王国を走り回る。

「女王様」

兵士たちが勇者を探し始めてから、一時間経った頃。一人の兵士が、玉座の間に入ってきた。

「どうした？」

「一人、勇者を名乗る者が来ました。連れてきましょうか？」

勇者を名乗るとは、そんなに自信があるのだろうか。それも自分から来るとは。

「……通せ」

とりあえず会ってみるのがいいだろう。しかし、嫌な予感がサディの頭をよぎる。

（もし、前みたいなドMが来たら……）

考えたくない。

サディが頭を抱えていると、

「女王様ですよ？」

赤マントの男が話しかけてきた。顔を上げてみると、髪を綺麗に整え、服には皺ひとつないという、いかにも綺麗好きな男が立っている。

この男には似合っていないが、勇者の赤マントは絶対なのだろうか。サディはなんとなく思った。

「貴様が勇者か？」

「そう。このボク、ナルスィーがこの世界で一番強い」

多少イラつとくるが、サディはよかったと安心した。今回は前よりマシだ。こいつなら『イイヤーン』も倒せるかもしれない。

それに、腰に下げている剣もなかなかの業物に見える。そういえば前は玩具だったか。今思えば、何であんなやつが勇者に選ばれたんだ。

「女王様、今ボクの顔見て惚れたでしょ？ボクはこの世界で一番強いとともに、この国一番のイケメンですから」

「……なんだと？」

こいつの欠点は思い上がりだ。サディはこんなやつに惚れていない。こんなのイケメンじゃなく、ただのブサイクだ。

「ほら、図星つかれてムキにならない」

「貴様……」

サディは得意の鞭を取り出してナルスィーを打つ。

「痛いなあ。そうそう、このボクに傷つけたら許さないよ」

ナルスィーはサディに投げキッスをして、玉座の間を出て行く。

「イイヤーンってオネエなんだよね。なら、このボクのイケメンでイチコロだよ」

普通の人間から見ても、この男がただのブサイクにしか見えないことを、ナルスィーは知らない。

サディは、あのブサイク男にイイヤーンは倒せないのではないかと思った。ならば、早いうちに手は打っておこう。サディはまた兵士に同じことを命令した。

「さあ、どこにいるんだい、大魔王『イイヤーン』？」

ナルスィーは前にDM勇者が真っ黒になったところに立ち、叫ぶ。

「何か用かしらあ？」

予想通り、イイヤーンは現れた。あいかわらずのミスマッチなりボ

ンが目立つ。

「・・・・・・・・」

「・・・・・・・・」

ナルスィーが黙ってどや顔を魔王に向ける。それを魔王は冷たい目つきで見つめている。

「このボクのイケメンを見て何も思わないのかい」

「いやぁーん！アンタナルシストねえ！」

「は？」

「あっち行って頂戴！シツシツ！」

魔王が、右手でナルスィーを払う。そのたびに凄い風が起こる。

「やめろ！ボクの美しい髪が乱れる！」

「気持ち悪いわぁ！」

続いて、魔王のビンタが飛ぶ。

いや、あんたの方が気持ち悪いって。そう考えながら、ナルスィーは飛ばされる。

「このボクの顔を傷つけたね？」

「知らないわそんなこと！アタシナルシスト嫌いなのお！」

ナルスィーが剣を抜こうとする。しかし、その前に魔王の雷が落ちる。

ナルスィーは真っ黒になった。しかし、それでもなお鏡で自分の顔確かめる。

「おお、黒くなってもボクの美しい顔は健在してるねえ・・・・・・・・あれ、目が見えなくなってきたぞ。これではボクの美しい顔が見れない・・・・・・・・」

そして、ナルスィーは事切れた。

「ナルシストがこのアタシを倒そうだなんて・・・・・・・・1964586226682254年早いわよ！」

そう言つて『イヤーン』は姿を消した。

（後書き）

二作目ですが、前と展開があまり変わってません（笑）
文章とストーリーは相変わらずの適当さですみませんorz

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6199v/>

ナルシスト勇者VSオネエ大魔王

2011年10月7日11時29分発行